

奥山真佐子ひとり芝居

樋口一葉

二十歳のとき



ひぐち いちよう
樋口一葉 (1872年～1896年)

甲州市塩山出身の両親のもと東京に生まれ、14歳から歌塾「萩の舎」にて学ぶ。父の他界後、小説家として一家を支えるべく半井桃水に師事。19歳で処女作「闇櫻」を脱稿。数々の小説を発表するが生活はままならず、下谷龍泉寺町にて商売を始める。10カ月足らずで閉店、本郷に戻るも、この下町での暮らしを題材に小説「たけくらべ」を発表、森鷗外、幸田露伴らに絶賛される。しかし惜しくも同年11月23日、肺結核により24歳で夭折した。2004年に五千円紙幣の肖像となった日本初の女性職業小説家。

樋口一葉が二十歳のときに《初恋》をテーマに書き下ろした3作品

-  **やみざくら 闇櫻** 1892年3月 文芸雑誌「武蔵野」創刊号書き下ろしの処女作。隣家の良之助と兄妹のように育った16歳の千代は、ある日友だちにからかわれたことから良之助への恋心に気づいて…
-  **だすき たま櫛** 1892年4月「武蔵野」第2号掲載小説。19歳の糸子と竹村緑は庭の垣根越しに互いに一目惚れ、結婚を希望するが、両親亡き後の糸子の養育に身を捧げてきた家臣・雪三は…
-  **さみだれ 五月雨** 1892年7月「武蔵野」第3号掲載小説。初恋に悩む19歳の優子と18歳の侍女・八重は乳姉妹。八重は優子の恋の成就のため仲介に立とうと、その相手の名前を聞いて…



おくやま まさこ
奥山真佐子 <樋口一葉・優子・八重>

山梨県甲府市出身。文教大学文芸科卒。マキノ雅弘・山田五十鈴・金子信雄・丹阿弥谷津子に師事。一葉の原文に少々の注釈や工夫を加えることで、黙読では得がたい一葉小説の世界を表現する活動を重ねて21年。一葉生誕140周年に出演したNHK「視点・論点」で、一葉との出会い、日本語の美しい響き、思いやりの心を伝える。NHK大河ドラマ「武田信玄」、朝の連続テレビ小説「あぐり」、黒澤明監督「まあだだよ」などに出演。舞台「生きてゆく私」御園座社長賞(演技賞)、一葉作品連続公演に対して「細うで繁盛記賞」受賞。NHK「夢見る葡萄」、「花子とアン」、「とと姉ちゃん」の山梨ことば指導を担当。
ホームページ <http://www.okuyama104.com/>

 **ときわづ わえいだゆう**
常磐津 和英太夫 <浄瑠璃>



幼少より五代目常磐津和佐太夫に師事。1987年常磐津和英太夫の名を許される。1990年より歌舞伎公演の演奏にも携わる。国内での演奏活動の他スイス、オランダ、アメリカ、メキシコ、中国など海外公演も多数。古典芸能研究に従事し、現在、早稲田大学演劇博物館招聘研究員、聖学院大学・宇都宮大学講師。近著に『十代目松本幸四郎への軌跡』(小学館)がある。

 **ときわづ きくよしろう**
常磐津 菊与志郎 <三味線・作曲>



常磐津菊志郎に師事。1994年、常磐津菊与志郎の名を許される。同年、国立劇場歌舞伎公演にて初舞台。2013年度清栄会奨励賞を受賞。歌舞伎公演、日本舞踊公演等を中心に活躍。NHK伝統芸能番組(テレビ、ラジオ)、テレビ朝日「題名のない音楽会」他に出演。パントマイムや舞踏、京劇、現代演劇との共演なども積極的に行う。

 **ないとう みちよ**
内藤 眞代 <箏>



福井県出身。幼少の頃よりアララギ楽苑渡辺悠子氏に手ほどきを受ける。第5回全国高校邦楽コンクール第1位受賞。福井県文化協議会新人賞受賞。NHK邦楽技能者育成会第46期卒業。上京後、箏曲以外のジャンルにも意欲的に参加。現在、大久保STUDIO-Mにて小二田茂幸氏の作品を中心に活動中。2016年9月にアルバム「かしこ」を発表。

 **こにた しげゆき**
小二田 茂幸 <箏曲作曲>



千葉県鴨川市出身。ギタリスト・作曲家。10代後半からギタリストとして活動。20代半ばより、新宿区のリハーサルスタジオ「STUDIO-M」を経営、jazz/rock、民族音楽を取り入れた音楽制作をはじめ。音楽ユニット「鼎人」を結成し都内を中心に活動。舞台音楽等の他、中国琵琶・イリアンパイプス・箏・バンズリなど民族楽器と西洋音楽の融合作品を制作。

脚本: 英次 ともゑ / 演出: 鈴木 龍男

所作指導: 花柳 奈千穂 / 美術: 高田 潔 / 照明: 須藤 実 / 衣裳: 金子 龍子 / 床山: 武川 卓男 / 美粧: 浅利 悦子 / 制作: 根本 三四子 / 舞台監督: 高田 潔

協力: 文京区法真寺 / 台東区立一葉記念館 / 鎌倉市鶴木清方記念美術館 / 山梨県立文学館 / 甲州市塩山常泉寺 / 新宿あいうえお / 東宝舞台(株) (株)アイロリ・コミュニケーションズ・エンタテインメント / (有)クライム・シンク